

高反発マットの導入と その効用

こんな介護スタッフはどこにもいない



ショートステイ王樹 代表 勝矢圭一

平成23年7月に開設したショートステイ王樹（ユニット型個室30床）では、ハッピーそよかぜ30枚とハッピーフィールド6枚、ハッピーあさかぜ30個を採用した。

これは、ショートステイを家族のための単なる「お預かり」のサービスで留まらせるのではなく、王樹を利用していただくことで、利用者の状態や活動をさらに改善したい、そして、生活を今以上に活性化させたいと思ったからである。

採用するにあたっては、低反発のマットレスも体験し検討した。個人的な感想ではあるが、身体が沈み込み、自発的な寝返りがしにくく、そのせいか朝起きてみると、血行不良を起こしているようで、身体が強張っている感じがした。一方で、そよかぜは、多少のざらつき感はあるものの、ほどよい弾力性による寝返りのしやすさ、そして起床時の爽快感を体験した。

褥瘡が改善した！

開設準備の段階では、そよかぜの固い質感を敬遠する利用者もいるのではないかと心配し

た。しかし、これまでの約5か月間で、ひとりもそのような利用者は出ていない。また、それどころか2人の利用者の褥瘡が改善するという実績を残すことができた。このうれしい2人の事例をここに報告したい。

◎Aさん（女性79歳・要介護度4）

パーキンソン病で車いすレベルの人である。当施設利用開始時には仙骨部にステージⅠ～Ⅱ程度の褥瘡があった。当施設ではフィールド+そよかぜの組み合わせでケアを行った。スタッフによる体位変換は2時間おきに行ったが、他の利用者と比較して特別なケアを行ったわけではない。1週間の利用を経て帰宅する頃には、発赤等がほぼ消滅するほど改善した。座位時間の短縮や体位変換、処置はどこでも行われていることであり、栄養状態が著しく改善されたとも考えにくい。現在は、褥瘡が改善したことにより車いすでの生活が長くなったことで、家族で団欒する時間が長くなり、笑顔が増えてきた家族も喜んでいる。

◎Bさん（女性86歳・要介護度4）

既往には肝硬変があり、ADL全介助で自宅では寝たきりの生活をされている。Bさんも仙

骨部に褥瘡があり、ステージⅡ～Ⅲ程度であった。他施設で褥瘡をつくってきたことを家族も心配し、当施設でも悪化しないかという不安な声も聞かれた。しかし初めての利用時だけで褥瘡は入居時より改善、ほとんど治癒状態で退居された。Bさんは栄養状態もままならない状態で、褥瘡が治癒することは困難な事例だと思われる。Bさんにもフィールド+そよかぜで対応し、他に特別なケアを行ったわけではない。家族から喜びの声をいただき、自宅では1日に1食食べればよいほうであったが、当施設では1日3食食べられるようになり、よく笑い、しっかりと言葉を発するようになっている。

ハッピーそよかぜの力を借りて 笑顔でハッピーな暮らしを

はじめに述べたように、低反発マットレスでは自発的な動きはできにくかった。しかし低反発マットレスは褥瘡予防として推奨されている。なぜ低反発でなく、高反発のそよかぜがこのような結果を出せたのか。「このマットは身体が簡単に動かせる」という声をよく聞く。目に見えるような寝返りなどはない人でも、生理的な微小な身体の動きをそよかぜの高反発がキャッチし、いわゆる「体動」につなげている。おそらく、それまではできなかった動きが再活動した結果、体内の循環機能が向上したのではないかと思う。

褥瘡の予防や改善には体位変換の必要性が言われる。この体位変換は多くの場合、介護スタッフによる外部からの支援によって成り立っているが、ハッピーを使用することは、本人の自己資源（残存機能）を活用することにつながっている。見方を変えると、そよかぜがマンパワー



全居室にそよかぜを完備

になっているとも言える。また、褥瘡の原因でもある皮膚湿潤はハッピーのおかげでまったく見られない。さらに、皮膚が過敏な人に、そよかぜよりも柔らかい質感のチャリーの使用も試み、皮膚の発赤の消失も確認できている。

利用者の生活を活性化するためには、まずは本人の力を最大限に生かすことが必要であり、私たちはその環境を整えることが使命である。今、現場で行われている介護の多くは事後処理的なモノである。ハッピーを利用することで寝たきりや褥瘡を予防し、さらには改善していくこと、これこそ私たちがやるべき積極的介入による「自立支援」だと思う。しかも、ハッピーは敷くだけで、24時間365日全力でがんばってくれる。こんな介護スタッフはどこにもいない。

ショートステイ王樹では「毎日笑ってもらいたい」というコンセプトを掲げている。今後もそよかぜの活用と私たちのがんばりで、笑顔でハッピーな暮らしを送ってもらいたい。



〔ショートステイ王樹〕

〒851-0101 長崎市古賀町993-3
TEL 095-832-0001 FAX 095-832-0007